opusdei.org

生涯4

1910年10月31日、セゴビア (スペイン) に生まれまし た。医学を学び、1933年に修 士号を、1944年に博士号を取 得しました。

2004/03/08

医師としての職務をマドリッドの王立病院で始めました。1935年にドイツへ留学します。1940年、マドリッドの総合病院に所属し、生涯に渡って師と仰ぐヒメネス・ディアス医師と共に働きました。

1946年、カディスの医学部にて、病理学教授として迎えられましたが、ほどなくグラナダ大学医学部へ転勤となりました。

1958年9月に、ナバラ大学医学部に 所属します。同時に大学病院に勤務 し、退職するまでそこで働きまし た。

スペイン内戦が勃発すると、エドワルドの父は軍人であったがために、連行され銃殺刑を宣告されました。1936年9月8日、父の処刑が執行されました。家族はその前晩、父とともに過ごしました。

エドワルドは、後に、この出来事について、「人生でもっとも辛い出来事だった」と述懐しています。そして、彼は深く心を揺さぶられ、神への回心の道を歩み始めたのでした。

1941年6月17日、ラウラ・ブスカ・ ラテギ嬢と結婚します。彼女はかつ て王立病院の薬局に勤務しており、 エドワルドは1935年に彼女と知り 合ったのでした。二人は7人の子ど もに恵まれ、エドワルドにとって、 家族は第一の奉仕の対象となりまし た。

1952年6月1日、オプス・デイへの所属を申請しました。オプス・デイと出会うことで、エドワルドは敬愛する聖ホセマリアの教えに従って、キリスト者としての生活を絶えず向上させるために、真摯に戦う日々を始めました。

神の子の精神を生きることで、次第に、素朴で堅固な信心を深めていきました。こうして、忙しい最中にあっても、また、疲労困憊している時にも、心の平安と喜びを絶やすことがありませんでした。

彼の医師としての生活は多忙を極めていました。早朝に起床し、一日を 祈りとミサへの参列で始め、一日の 仕事を終えるのは、通常、翌日に なってからでした。

同僚たちとは真心を込めて接し、学生たちにとっては、教授とした。教授とした。をしてもよき師でありました。でしたのでは変情をもいることにであるとしているが必要としているではないがられるに、授かった才能をもいるために、自己に対しても、要求しました。

患者たちにとっては、エドワルドは よき友でした。エドワルドは、患者 たちが、身体的にも霊的にも健康で あるように心をくだき、患者たちの あらゆることに関心をもって接して いました。

オプス・デイの与える形成を通して 生活の一致の大切さを学び、家族の 世話、学業、仕事、同僚や学生との 付き合いなど、すべてはキリスト者 としての一貫した生き方で潤される べきであることを深く理解していま した。神に向かって秩序正しく果た された一つひとつの仕事は、神への 奉献であり、真の観想的祈りとなっ ていきました。

1983年、73歳を向かえた年に教授職を去りました。その直後、癌腫瘍が見つかり、手術を受けましたが、すでに手遅れでした。

不治の病であることをはじめから悟っていたエドワルドは、十字架のキリストの苦しみに固く一致し、教会のために病気を受け入れ、捧げていました。最後の2年間は、衰えることの知らない熱意をもって職務にあたり、多くの人を神へ近づけていきました。

1985年5月1日、パンプロナの大学病院に入院します。彼が多くの患者たちに愛情を注いだこの場所で、20日の午前9時10分、息を引き取りまし

た。臨終においてエドワルドは、 「主よ、信仰、希望、愛を増してく ださい。私の心があたなの心となり ますように」と繰り返していまし

エドワルドの死とともに、彼の聖性 の評判が広まり、彼の取り次ぎを願 う人々が日々増加していきました。

列福調査に協力してくださる方のご 寄附に感謝いたします。送金は以下 の口座にお願いいたします:

宗教法人オプス・デイ・ジャパン

三菱UFJ銀行芦屋支店

(普通) 3867278

t-,

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sheng-ya-4/(2025/11/21)